



# INDONESIA MISSION

発行：日本福音教会(JEC) インドネシアミッション

〒662-0896 西宮市上ヶ原六番町2-42 西宮福音教会内 Tel: 0798-51-5100

郵便口座：00970-3-313875 「インドネシアミッション」



8月ATI神学校卒業派遣式の様子

高橋めぐみ師が帰国されミッションの働きが刻々と変化する中で、前号よりニュースレターもそのデザインを一新しました。このタイミングで長年働きを支えて来られた山本長老とともに働きをお手伝いすることとなりました。大田師ご一家が西宮から宣教地へと出発される日の引越トラックの姿が、つい昨日のことにように思い出されます。あの時からさらに宣教の働きは拡がり、当時学生だった自分もこの働きに加えられている…。「あなたがたはキリストのからだであって…、神は教会の中に…」神様は、様々な人を組み合わせ、お用いになる。宣教もまた教会であると思います。これからもニュースレターをお読みくださり必要のためにお祈りご支援いただければ感謝です。

インドネシアミッション事務局長 檜垣 正裕



2017年エンティコン・ワークキャンプの作業風景

## アンジュンガン (ATI 神学校)

インドネシアミッション代表 高橋 めぐみ

未伝道部族への伝道活動をしているカレブチームの実として、今年7月に●族のS姉が献身してATI神学校に入ってきました。今回は彼女の証しを紹介します。

私は中学生の時にカレブチームの訪問をきっかけにイエス様を信じるようになりました。そして高校を卒業する時に、これからの進路について正しく決断できるよう断食して祈りました。そして一冊の本に出会いました。題名は『Not a fun』です。その本にはヨハネ3章16節とルカ9章23節から十字架を負うとはどういうことかが書かれていました。私はこの2つのみ言葉が心に響き、イエス様に従っていく以外に道はないのだと思いました。そして献身してATI神学校で学ぶ決心をしました。『神様あなたが私を遣わすのでしたら、あなたが責任を取ってください』と祈りました。神学校へ行くことを両親にどう言おうと悩みました。私が神学校へ行くと母に告げると、母は激怒して私を呪い始めました。神学校に出発する朝には荷物を全部取り上げられました。それで私は身一つで逃げるように舟に乗り込み、向こう岸へ舟を漕ぎました。母が川岸まで追いかけてきて「お前はもううちの子でもでない」と叫んでいました。今、私は母が私を許してくれるように、そして両親がイエスキリストを信じる事ができるように祈っています。両親のために、そして私のATI神学校での訓練のために、どうぞお祈りください。



救われたS姉



約140km

ブンカヤン

## プニティ・アナスタシス教会

インドネシアミッション代表 高橋 めぐみ

プニティ・アナスタシス教会の土地証書を8月初めにやっと、やっと手にすることができました。この教会は一度地域の人々によって打ち壊しにあった後、1997年に再建築されました。しかし正式な土地証書を取得することができずに来ました。教会の土地に勝手に家を建てられる問題なども起こり、2010年から本格的に手続きに取り組みました。●族の村長、区域長の同意を取り付けるところから始まり、途中で、教団の分裂問題も起こり手続きは難航し暗礁に乗り上げました。教団本部の対応に失望してフレンキー師は、一時は牧師を辞めようと思うほどでした。しかし、神様には方法があり、ジョコウィ大統領の政策の中での特別命令で、最低限の書類で土地証書を発行してもらえることになったのです。そして、証書は一旦発行され喜んだのですが、なんと名義に間違いがあり、それを訂正するのにまた時間がかかり、今度こそ本当に正式な書類を手にすることができました。ハレルヤ！それで教会は今、塀の設置、CS用の部屋を増築、などの計画を進めています。



打ち壊しにあった教会(1997年)



念願の土地証書！

約200km

## スルートウンバワン（グロリア寮Ⅱ）

インドネシアミッション委員 東 聖士



グントウンバワン村での集会の様子

8月下旬、舎監と10人の寮生が、グロリア寮Ⅱに入っている寮生たちの故郷のひとつ、グントウンバワン村に訪問しました。寮に入る子どもたちの故郷の多くは、小学校低学年までしかなく、学ぶことが出来ません。そのため多くの子どもが遊ぶか家の農作業を手伝う日々を送っています。そのような故郷の小さな子どもたちに、もっとイエス様の素晴らしさを伝えたいと願い、寮の子どもたちが自分たちでスキットをして、村の子どもたちに披露しました。スキットを見た村の子どもたちは物珍しさと楽しさで目が輝いていたそうです。10月、11月にも違う村に行き福音を伝えました。

このような上の世代を見て憧れ、中学校に進みたいと願う子どもたちが増えるサイクルがようやく軌道に乗って来たようです。村から送り出された子どもたちが、神様から遣わされた小さな宣教師として凱旋するという神の国の働きが広がっています。教育の重要性を知るほどに、寮の働きも比例して必要になります。寮生が世の光として用いられる姿は、頼もしい限りです。

## マントン島西部地図



## エンティコン（グロリア寮Ⅰ）

インドネシアミッション委員 東 聖士



草が多くなりましたがまだまだです

10月から雨が降る日が少しずつ増えてきました。斜面の地崩れが起こらないように、と折りつつの毎日です。草は以前より生えましたが、土の栄養不足と水不足が響いていて、まだまだ斜面が強くなったとは言えません。周りの草を植えて強化を促進したかったのですが、インフラが整っていない地域ですので、乾季は生活用水を確保することすら困難で、植えた草に水やりが出来ず根付きませんでした。雨季を見計らって、舎監や寮生に雑草の植え付けを再度トライしてもらう予定です。



新しく崩れた道路横斜面の様子

一方で乾季と言えども強い雨が降ることもあり、公道から寮に入ってくる私道の横で、新たな地崩れが発生しました。2年前にJECユース主催のワークキャンプで植樹したおかげで、被害は最小で済みましたが、不安を覚えています。斜面に杭を打って補強していますが、根本的な解決ではないので、何らかの対策が必要です。日本で考えた対策を舎監と子どもたちで作業することになりそうです。寮の舎監と子どもたち自身で寮を管理し、守っていく必要がありますので、生活を覚えてお祈りください。

# 胡椒奨学金プロジェクト

胡椒プロジェクト担当 伊藤勝利

胡椒プロジェクトは、子どもたちの奨学金のための献金(一口1000円~)を呼びかけ、ささげてくださった方に西カリマンタンの白胡椒50gをお渡ししている活動です。10月~11月に再度胡椒プロジェクトの案内をさせていただきました。多くの方が応答して下さい、予想をはるかに上回る献金をささげてくださいましたこと、心から感謝します。幸いなことに、今年の秋用に準備していた胡椒は全てなくなりました。現在、胡椒を常時確保することが難しいので、当面は春と秋の一年に2回サポート窓口を開き、活動を継続していきたいと願っています。次回は来年の4月頃を予定しています。是非続けて子どもたちへのサポートをお願いします。最近の情報は下のQRコードからご確認ください。

胡椒奨学金プロジェクトに関するお問い合わせは、以下にご連絡ください。

八尾福音教会 曙チャペル 伊藤勝利(インドネシアミッション胡椒プロジェクト担当)

住所: 〒581-0026 大阪府八尾市曙町2-1-7

アドレス: akebono@jec-net.org



情報はこちらから



胡椒の選別作業

## 胡椒プロジェクトによる奨学生の証し

2019年春に胡椒プロジェクトを立ち上げて、3名の子どもたちの支援をすることが出来ました。今回は、そのうちの1人、ムンキンの証しを感謝しつつ掲載させていただきます。

### ヨセバ・ムンキン

私は貧しい家庭に育ちました。宗教はカトリックでした。中学校の時にスルートウンバワン村のグロリア寮Ⅱに住んで指導を受けました。私はこの寮で初めて、主イエス・キリストと出会いました。寮生活では沢山の不足がありましたが、主はいつも必要を満たし、共にいてくださいました。それで、私は寮でいろいろな奉仕を手伝っていくうちに主に従っていきたく願うようになりました。中学を卒業した時、私は高校進学を願いましたが、家族にはその経済力がありませんでした。私はどうすればいいかわからずただ神様に祈っていました。そしてある時、私の願いを知った人にアンジュンガンにあるATI神学校の聖会に連れていってもらい、そこでこれからの進路について祈ってもらいました。そしてその後しばらくして、めぐみ先生を通してサポートを受けて高校に進学できることを聞きました。神様に心から感謝します。神様は、私が考えもしなかったことを私の人生にしてくださいました。そしてブンカヤンにあるペラカ寮に入って高校に進学することができました。

このペラカ寮での高校時代に、献身について本当に悩み、祈られました。なぜなら私の村、家族の宗教はカトリックで、私がプロテスタントに改宗(※)することに猛反対で冷たい仕打ちも受けたからです。しかし、主は支えてくださり、私は決断し2018年の5月27日に洗礼を受けました。そしてATI神学校に入る決心をしました。学費についてはどうしたらいいかわかりませんでしたが、しかし今まで養ってくださる神様が助けてくださると信じることができました。その時私を強めてくださった御言葉はエレミヤ29:11-12とヨハネ14:6です。そして今年7月にATI神学校に入学することができました。神様と私をサポートしてくださっている方々に心から感謝します。

※インドネシアではカトリックとプロテスタントは別々で見なされています。



宣教師館にて



めぐみ師、同級生と一緒に

# － 祈りのリクエスト －

## ATI神学校

- ◎神学校が続けて宣教のために用いられるように
- ◎神学生たち（約120名）の祝福のために
- ◎校長に上より知恵と愛が与えられるように

## エンティコン・グロリア寮Ⅰ

- ◎寮前の斜面のフォローアップと寮への通路の工事のために
- ◎舎監のデルフィ夫妻、実習生のリアンの祝福のために
- ◎土地証書の訂正が早く終わるように

## スルートゥンバワン・グロリア寮Ⅱ

- ◎舎監のヘルマヌス夫妻、フェルナンドの祝福と、バイクでの移動の守りのために
- ◎寮の前の道が拡張され整備されることになり、それに伴いグロリア寮Ⅱは後ろの土地へ移転する事になりました。今後の西カリマンタン州との交渉のために
- ◎子ども達が出身村の祝福の基となっていくように

## ブンカヤン・ベラカ寮

- ◎11月末に結婚した舎監ジュマディの新生活のために
- ◎3つの寮のまとめ役でもあるギデオンの、上よりの知恵が与えられるように
- ◎通学バスがスムーズに運行されるように

## 3つの学生寮共通

- ◎3つの寮の舎監達の霊性と一致のために、寮に入った子どもたちが変えられていくように

## 奨学生

- ◎教師、看護師、牧師を目指している寮の卒業生たちの必要が日々満たされるように。誘惑から守られ、霊性も守られるように
- ◎胡椒プロジェクトの活動が続けて用いられるように

## フニティ・アナスタシス教会

- ◎華人中高生たちの家族が救われるように
- ◎地域の人々との関係作りのために
- ◎教会の塀とCSの部屋の増築プロジェクトのために

## 沿岸部族の働き

- ◎名前を挙げて祈っている人達の救いのために
- ◎沿岸部族伝道の継続と守りのために
- ◎●族伝道に献身しているジョナタン夫妻の今後の導きのために



ベラカ寮の舎監ジュマディが結婚しました！

## ミッショントリップその後・・・

### 国分福音教会 富浦颯(高校2年生)

インドネシアミッショントリップから帰ってきて変えられたことは、神様との関係と神様に対する想いです。インドネシアミッショントリップから帰ってきて神様との関係が、より一層深くなりました。日常で祈ることも増え、神様の存在がよりはっきりと分かるようになり、神様に対して慕い求めるという想いが強くなりました。またデポジションをしたり、メッセージをより真剣に聞くようになったり、時間があれば賛美をしたりと神様との時間が多くなりました。そしてもう一つ変えられたことは、宣教に対する想いです。以前は宣教に対してあまり関心がありませんでした。しかし、ミッショントリップから帰ってきて、宣教に対する考えや想いが180度変えられました。宣教に何らかの形で関わりたいと思うようになりました。これは海外に限ったことではなく、身近な友達にも本気で神様のことを知って欲しいと思うようになりました。私たちはそれぞれの遣わされている場所で神様のことを伝えていかないといけない。宣教というものはもっと身近にあって、ともに祈っていく必要があると思いました。この宣教の想いを証して、共に祈り合いながら、力合わせて宣教していきたいと思われました。



### パークサイドチャペル 小林日和(大学1年生)

昨年の12月にインドネシアのミッショントリップに参加しました。ミッショントリップから10か月経った今でもインドネシアで得た神様の恵みと祝福を握り続けて過ごしています。インドネシアの方々の優しい笑顔や、時間や労力を惜しまず私たちのために多くのことをしてくださる姿を見てとても感動したのを今でも覚えています。言葉は分からないけど、インドネシアの方々との関わりの中で神様の愛に触れることができ、宣教は言葉だけでなく、思いや行いでもあるのだと気付かされました。日本に帰ってきて日常を送る中で、人間関係に悩むこともあります。しかしインドネシアの方々を通して神様の愛を感じることができたように、私の言葉や態度を通して神様の愛を流していけるように日々神様に力をいただいて過ごしています。豊かな自然や美味しい食事、暖かい人々がいるインドネシアが私は大好きです。そんなインドネシアの地で神様の福音を伝えていきたいという思いも与えられました。インドネシアで過ごした豊かな時間は私にとって宝物です。インドネシアミッショントリップを通して世界宣教に携わることができ、偉大な御業を見せてくださった神様に感謝でいっぱいです。

